

小学生低学年の齲蝕罹患と保護者の保健行動との関連

ふじはらあいこ

○藤原愛子^{1,2)}, 武田 文¹⁾, 朴峠周子¹⁾, 浅沼 徹³⁾,

017

門間貴史³⁾, 鈴木淳子¹⁾, 鈴木梢子³⁾, 木田春代¹⁾

1)筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻

2)静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科

3)筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻

【背景】永久歯齲蝕と乳歯齲蝕との関連が指摘されており¹⁾, 低年齢時からの齲蝕予防対策が肝要と考えられる。児童の齲蝕罹患と子どもの保健行動(歯みがき・甘味食品の摂取・定期歯科健診受診など)との関連が指摘され, 一方で子どもの保健行動は保護者の保健行動と関連するとされている。しかしながら, 子どもの齲蝕罹患と保護者の保健行動との関連を検討した研究は極めて少ない。また, 歯みがき点検による齲蝕抑制効果については異論がみられ, フッ化物塗付による齲蝕抑制効果は30~70%とされ, 他の要因との関わりが示唆されている。

【目的】小学生低学年の齲蝕罹患と保護者の保健行動との関連を明らかにする。

【対象と方法】東海地方の1小学校1~3年生の保護者214人を対象に, 保健行動(間食摂取習慣, 歯みがき点検の習慣, 子どもに定期的に歯科健診やフッ化物塗付を受けさせる習慣)および子どもの間食摂取習慣について, 記名自記式質問紙調査を行った。子どもの齲蝕罹患状況は, 養護教諭の監督下で学校歯科健康診断票を転記してデータを得た。本研究は, 所属倫理審査委員会の承認を得た。

173人(有効回答率80.8%)に関して, 児童の齲蝕有無を従属変数, 保護者の保健行動を独立変数とするロジスティック回帰分析を行い, さらにp値が0.2未満であった独立変数により多重ロジスティック回帰分析(変数増加法, 尤度比)を行った($p < .05$)。

統計パッケージは, SPSS16.0J for windows を用いた。

【結果】齲蝕罹患のオッズ比は, 保護者が歯みがき点検を毎日行わない児童に対して毎日行う児童が, 定期的にフッ化物塗付を受けさせている児童に対して受けさせていない児童が, それぞれ高かった。

【考察】保護者が定期的にフッ化物塗付を受けさせることは小学生低学年の齲蝕罹患抑制に有効であることが示唆された。一方, 歯みがき点検を毎日してもらった児童はしてもらわない児童よりも齲蝕罹患の危険が高かった。仕上げみがきで齲蝕好発部位である咬合面を清掃することの困難も指摘されており²⁾, 歯みがき点検については, 点検後の仕上げみがきによる歯垢除去の程度など, 更に詳細な調査が必要と考えられた。

(参考文献) ¹⁾藤原愛子他: 学童期における永久歯齲蝕罹患予測指標の検討。日本歯科衛生学会雑誌, 2(2), 13-18, 2008。

²⁾金子明美他: 幼若永久歯の口腔清掃に関する研究 第3報 保護者の仕上げみがき効果について。小児歯科学雑誌 34(2), 495, 1996。

(連絡先) 藤原愛子, 静岡県立大学短期大学部, 静岡市駿河区小鹿 2-2-1, fujiwara@u-shizuoka-ken.ac.jp

一般口演に参加をお願いしたい方: 学校保健関係者の参加をお願いいたします。